

百人一首を書きましよう。

あはれともいふべき人は思ほえて

身のいたずらになりぬべきかな

【現代語訳】

「かわいそうに」と言ってく
れるはずの人も思い当たらな
いまま、私はこのままむなし
く死んでしまおうでしょう。

謙徳公

由良の門を渡る舟人かぢを絶え

ゆくへも知らぬ恋のみちかな

【現代語訳】

由良ゆらの海峡を漕ぎ渡る船人
が、櫂がなくなつて行方も
しらず漂うように、どうな
るか分からない恋の道であ
ることよ。

曾禰好忠

八重むぐら茂れる宿の寂しきに

人こそ見えね秋は来にけり

【現代語訳】

幾重にも雑草の生い茂ったこ
の寂しい宿に、人は誰も訪ね
ては来ないが秋はやってきた
のだ。

恵慶法師

風をいたみ岩打つ波のおのれのみ

くだけてものを思ふころかな

【現代語訳】

風が烈はげしいので、岩に打ち寄
せる波が自分だけ砕けて散る
ように、つれないあの人の為
に私の心も砕ける程に思い悩
むこの頃である。

源重之